
経済 TOPICS

No. 238

(2024 年 12 月 19 日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費や輸出の回復の動きに一服感が見られるものの、生産に持ち直しの動きが見られることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価（除く生鮮食品）は、エネルギー価格の上昇幅が縮小したことから、前年比プラス幅が縮小している。この間、海外での軍事紛争の長期化、中国経済の低迷、米国新大統領の政策運営など、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産は横這い圏内で推移しているものの、個人消費や設備投資が堅調に推移していることから、全体としても堅調に推移している。この間、中古住宅販売は低調な状態が続いている。消費者物価は、サービス価格の粘着質な上昇圧力が続いていることから、前年比プラス幅が緩やかに拡大している。

（参考）物価動向

＜日本＞ 生鮮食品を除く食料価格が上昇しているものの、エネルギー価格の上昇幅が縮小したことから、全体としては前年比プラス幅が縮小している。この間、サービス価格の上昇圧力と価格転嫁の動きは続いている。

＜米国＞ エネルギー価格や食料及びエネルギーを除く商品価格は鎮静化しているものの、サービス価格の粘着質な上昇圧力が続いていることから、全体としては前年比プラス幅が緩やかに拡大している。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング
